

座談会

尿検体からのメッセージ



◆シンポジスト

吉田輝彦 先生（前列右端）
東京大学医学部附属病院
腎臓内科・検査部

菊池春人 先生（前列中）

済生会横浜市東部病院
臨床検査センターセンター長

石澤毅士 先生（前列左端）

慶應義塾大学病院 臨床検査科

小坂秀子 先生（後列左から二番目）

アークレイ株式会社

研究開発本部 開発五部

第二チーム

中嶋真也 先生（後列左端）

アークレイ株式会社

研究開発本部 開発第五部

◆司会

石橋みどり（後列右から二番目）

◆オブザーバー

諏訪部章（後列右端）

東條尚子（後列右から三番目）

はじめに

石橋 本日の座談会のテーマは「尿検体からのメッセージ」です。臨床医の吉田先生、検査専門医の菊池先生、臨床検査技師の石澤先生、メーカーで研究開発に携わっておられる小坂先生、中嶋先生にお話を伺います。どうぞよろしくお願いいたします。

尿の検査は、ご承知の通り、歴史的には2500年ほど前から行われるようになりました。「患者さんの尿を舐めてみて、甘かったら糖尿病と診断をする」というような時代からあった古い検査です。

また、患者さんにとっては侵襲性が低いので、いろいろな場面で使われやすい検査だと思います。今日の座談会は、最初に「尿検査の意義」、次に「尿検査の現状と課題」、そして最後に「今後の展開」の三つのセクションに分けて伺います。

尿検査の意義

石橋 まず「尿検査の意義」、尿検査が医療の中でどのような役割を担っているとお考えかを全員の先生に伺います。

吉田 東大病院で尿検査も担当しています。血液検査は、採血が必要なので針を刺しますが、尿検査は侵襲がゼロというのは非常に良いと思っています。